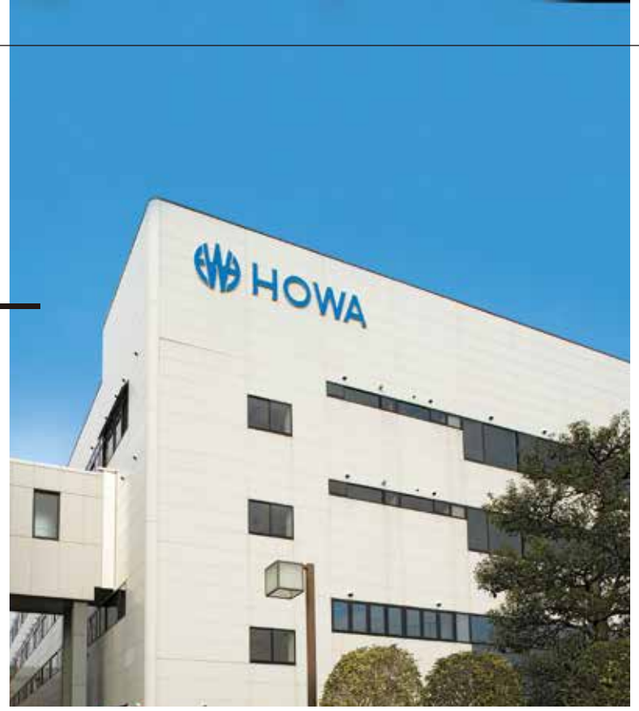
HOWA CSRレポート2022

会社概要

- 会　社　名　株式会社HOWA（Howa Co.,Ltd.）
- 代表取締役社長　髙田　智行
- 本社所在地　愛知県春日井市味美白山町2丁目10番地の4
- 設　　立　1955年（昭和30年）3月7日
- 事業内容　自動車用内装部品の企画・開発・製造・販売
- 資　本　金　3億240万円
- 売　上　高　654億円（2021年度　グループ全体）
- 従業員数　3,221名（2022年3月末　グループ全体）
- 主要製品　ヘッドライナー、ダッシュインシュレーター、サンシェードトリム、ドアトリム、ラッゲージトリム、NV製品　等



国内外ネットワーク

国内拠点・工場

本社/愛知県春日井市
東京支社/神奈川県厚木市
大阪営業所/大阪府池田市
栃木営業所/栃木県宇都宮市
磐田工場/静岡県磐田市
岡崎工場/愛知県岡崎市

国内関連会社

株式会社HOWA九州/福岡県嘉麻市
株式会社HOWA岩手/岩手県胆沢郡金ケ崎町
株式会社HOWA栃木/栃木県那須塩原市
株式会社HOWA岐阜/岐阜県不破郡垂井町

海外関連会社

【アメリカ】
American Howa Kentucky, Inc. Kentucky工場
American Howa Kentucky, Inc. Ohio工場
American Howa Kentucky, Inc. Mississippi工場
American Howa Kentucky, Inc. Georgetown工場
Howa USA Holdings, Inc.
【メキシコ】
Howa Mexico, S.A. DE C.V.
【カナダ】
Howa Canada Manufacturing, Inc.

【フランス】
Howa Tramico SAS Brionne工場
Howa Tramico SAS Coulomb工場
Howa Tramico SAS Pullflex SAS
【スペイン】
Howa Tramico SAS s.o. Isofel
【スロバキア】
Howa Tramico Slovakia s.r.o.
【ロシア】
LLC Howa Tramico
【ポルトガル】
Howa Tramico Automotive Unipessoal Lda

【中　　国】
天津新明繊維樹脂製品有限公司
佛山新明繊維樹脂製品有限公司
武漢新明繊維樹脂製品有限公司
襄陽新明繊維樹脂製品有限公司
広東豊明商貿有限公司
豊和繊維研発（佛山）有限公司
【韓　　国】
Howa Korea, Ltd.
【タ　　イ】
Howa Thailand Co., Ltd.
【インドネシア】
PT. Howa Indonesia

SDGsへの貢献

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標です。
17のゴール・169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。当社においても、事業活動やCSR推進を通じ、目標に向かって積極的に貢献していきます。

目　次

・会社紹介	01
・会社紹介/目次	02
・製品紹介	03
・数字で見るHOWA	05
・経営理念／CSR方針	07
・トップメッセージ	08
・次世代への挑戦とカーボンニュートラルへの道程	09
・ESG と HOWA の取組み	11
・環境	13
・社会	17
・ガバナンス	23

沿　革

1955年 ・会社設立（愛知県名古屋市中区御幸本町）
　黒川工場（名古屋市）にて自動車用
　コットンマット（クッション材）生産開始
1960年 ・春日井工場新設（愛知県春日井市）
1961年 ・本社移転（愛知県春日井市）
1965年 ・磐田工場新設（静岡県磐田市）
　・フロア用パット材（フェルトップ）生産開始
1967年 ・ダッシュインシュレーター生産開始
1970年 ・厚木工場新設（神奈川県厚木市）
　・成形天井生産開始
1978年 ・岡崎工場新設（愛知県岡崎市）
　・シート用RCMマット生産開始
1987年 ・東豊産業（韓国）設立
1991年 ・本社「技術本館」竣工　半無響室設置
1992年 ・（株）豊和繊維九州製作所設立（福岡県嘉麻市）
　・ウレタンダッシュインシュレーター生産開始
1995年 ・本社「技術センター」竣工
1996年 ・ウレタン成形天井生産開始
　・天然繊維成形天井生産開始
1998年 ・岡崎工場にオレフィンシートライン設置
1999年 ・モジュール成形天井生産開始
2000年 ・日豊化成（株）岐阜工場竣工
　・高圧・低圧インジェクション成形トリムの生産開始
2002年 ・本社「システム開発センター」竣工
2003年 ・（株）豊和繊維岩手製作所設立（岩手県胆沢郡）
2004年 ・Howa USA, Inc設立（米国インディアナ州）
　・厚木システム開発センター新設（神奈川県厚木市）
2005年 ・天津新明繊維樹脂製品有限公司設立（中国）
2006年 ・佛山新明繊維樹脂製品有限公司設立（中国）
　・本社「実験棟」竣工
2007年 ・American Howa Kentucky, Inc（AHK）設立
　（米国ケンタッキー州）
2008年 ・（株）豊和繊維栃木製作所設立（栃木県那須塩原市）
　・Howa USA Holdings, Inc設立（米国ミシガン州）
　・広東豊明商貿有限公司設立（中国）
2009年 ・武漢新明繊維樹脂製品有限公司設立（中国）
2010年 ・Howa Thailand Co., Ltd. 設立（タイ）
　・Howa USA, IncをAHKに統合
2011年 ・豊和繊維研発（佛山）有限公司設立（中国）
2012年 ・PT. Howa Indonesia 設立（インドネシア）
　・フォルシア豊和インテリア設立（神奈川県厚木市）
　・Howa Tramico SAS 設立（フランス パリ）
2013年 ・本社「コミュニケーションセンター」竣工
　・Howa Mexico, S.A. DE C.V. 設立（メキシコ）
　・Howa Canada Manufacturing, Inc. 設立（カナダ）
2014年 ・襄陽新明繊維樹脂製品有限公司設立（中国）
2019年 ・商号変更（当社および国内関連会社）

旧社名	新社名
豊和繊維工業株式会社	株式会社HOWA
株式会社豊和岩手製作所	株式会社HOWA岩手
株式会社豊和栃木製作所	株式会社HOWA栃木
株式会社豊和九州製作所	株式会社HOWA九州
日豊化成株式会社	株式会社HOWA岐阜

2020年 ・東京支社新設
2021年 ・東京支社に厚木システム開発センターを統合

製品紹介

当社は、快適な車内空間を創造することを目指し、自動車メーカーのニーズを先取りした製品を提供し続けています。
内装部品では低密度ウレタン基材によるヘッドライニングで業界トップシェアを長年維持し、また、ノイズや振動を吸遮音するNV部品では軽量化と低コスト化等でダッシュサイレンサーで業界トップシェアを誇っています。
また、従来は無かった部品として、社外騒音対策部品のエンジンアンダーカバーやボディアンダーカバーをHOWA独自の技術により開発し業界トップクラスの性能を誇っており、EV車の電池バッテリー部品でもHOWAオリジナル技術でメーカーのニーズに対応しています。

ヘッドライニング

車内の天井部分のトリム（内張り）です。心地よい見た目や触感に加え、音や熱の侵入を抑える製品です。

ヘッドライニング

ヘッドライニング（サンルーフ）

成形天井は、1970年、国内で初めて当社が開発しました。自社生産されたウレタンを使用しています。連続気泡のウレタンフォームの両面を、ガラス繊維で強化したウレタン天井は、軽量で、吸音性、耐熱性、耐湿性に優れ、寸法安定性も高く、特に大型の成形天井に適しています。

サンバイザー

普段はフロントウインドシールドの上に保持され、運転時の日差しを遮ります。

サンシェードトリム

心地よい太陽光と涼しげな風を車内に取り込むサンルーフ。
サンシェードのウレタン層が車外騒音を遮り、ガラスサンルーフからの太陽光や紫外線を遮断し、快適な車内空間を実現します。

ドアトリム

ドアの内張りパネルで、自動車のインテリア空間を構成する製品です。

ドアトリム

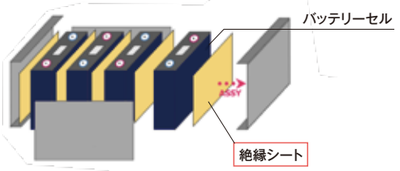
各ドアの室内側にセットされるトリムです。
制振材として外部からの侵入音や振動を抑えます。

ボデーサイドトリム

室内側壁面のドアを除く部分のトリムです。ドアオープニング部分の車体鉄板側外周に取り付け、衝撃吸収・車内密閉・見栄え向上等の機能を有する部品です。

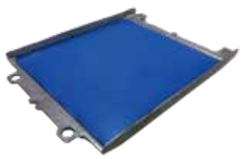
バッテリー部品

EV車のバッテリーの絶縁、保護に使われる製品です。



絶縁シート

絶縁シートは、EV 車バッテリーの中で小型のバッテリー（バッテリーセル）間のショートを防ぐ機能を持ったシートです。


バッテリーカバー

バッテリーカバーはバッテリーセルの集合体をまとめてカバーし、一つのバッテリーユニットを構成するものです。
バッテリーユニットの保護、延焼防止の機能を担っています。

トランク・ラゲッジトリム

衝撃や振動を緩衝する制振機能と外部からの侵入音を抑える吸・遮音機能をあわせ持つ製品です。

バックドアトリム

バックドアにセットされるトリムです。制振材、吸・遮音材として外部からの侵入音を低減するほか、荷物への衝撃や振動を緩和します。

パッケージトレイトリム

リアシートとリアウインドウ間に装着される製品です。トランクルームからの騒音の侵入やボディの振動を抑えるとともに、カーオーディオのスピーカーやストップランプの設置場所としての機能を担います。

デッキサイドトリム

デッキ側面（リアクォーターピラー付近）にセットされるトリム。制振材として外部からの振動および侵入音を抑えます。

ラゲッジボード

荷室・ラゲッジスペースの高さを調節するためにラゲッジルームの床面に配置する部品です。近年荷室の多目的な利用に対応した提案を行っています。

トノボード

乗用車やトラックなどの荷室を覆うカバーです。主に布やビニール、革、プラスチックでできており、乗用車ではステーションワゴン、SUV、ハッチバックなどのモデルに装備されています。カバーの多くは、使用しないときの着脱や巻取りが可能となっています。

ラゲッジボックス

ラゲッジフロア下部に用意された樹脂成形の収納ボックスで、スペアタイヤカバーの役割に加えて、工具や小物を収納することができます。

NV Product

騒音や振動を軽減し、車内空間を快適に保つ機能製品です。

ダッシュサイレンサー

ダッシュパネルの車室内側に装着される防音材です。エンジンノイズ、ロードノイズを低減します。

■ダッシュサイレンサー　フィルム技術

主にエンジンルームからのノイズを防音するダッシュサイレンサーのフェルトとフェルトの中間層にフィルムを入れた、高性能な防音材を提供しています。当社ではその構成を特許取得し、多くの車両に搭載しています。

■X-Band技術

車両防音材としてはウレタンやフェルトなどの多孔質材料にオレフィン系ヘビーシートが使用されていますが、200Hzから500Hzの周波数領域には対応できませんでした。当社は、独自のフィルムを活用したX-Band構成により、この領域にも対応できる防音材を特許取得し量産しています。穴開き遮音層とフィルム層の逆位相振動により、特に問題となる中周波域のエンジンノイズの低減、かつ軽量化を実現させました。この技術は、2015年、トヨタ技術開発賞およびCE特別賞を受賞しました。

エンジンアンダーカバー

エンジンルームの下部に装着される防音材です。車外騒音を低減し、空力性能を向上させることで燃費向上に貢献します。

フードインシュレーター

ボンネットのエンジンルーム側に装着される防音材です。
車外騒音を低減します。

フェンダーライナー

ホイールハウスに装着される防音材です。走行時のタイヤ騒音を低減し、泥や石跳ねからボディを保護します。

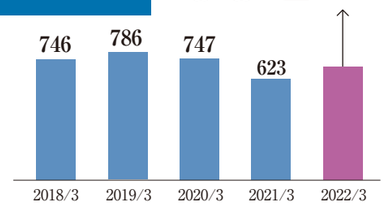
ボディアンダーカバー

車両下に装着され、車外へ漏れたエンジン音や路面側が音源となるロードノイズ等に対して吸音・遮音する部品です。空力性能を向上させる他、泥や石跳ねからボディを保護します。

数字で見る HOWA

数字で見る HOWA

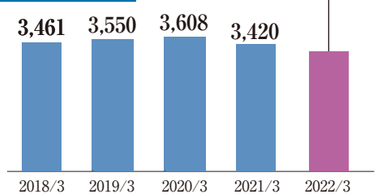
売上高（連結）
654億円



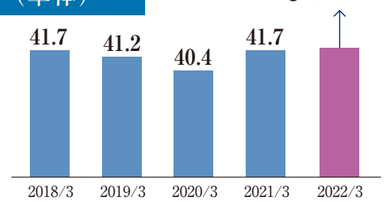
会社創立
67周年
（2022 年 3 月）

創立日1955年3月7日
（昭和 30 年）

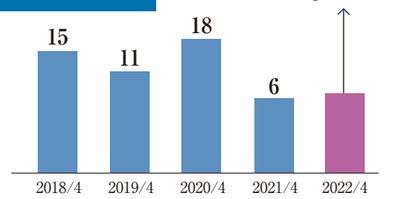
社員数（グループ全体）
3,221人



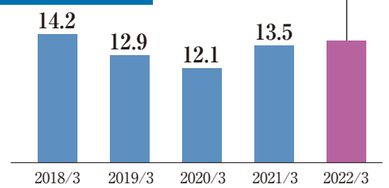
平均年齢（単体）
41.8歳



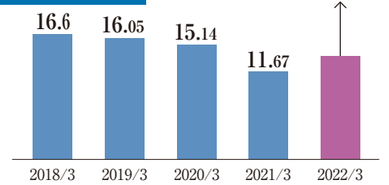
新卒採用者数（単体）
7人



平均勤続年数（単体）
13.8年



平均残業時間（単体）
13.54h/月

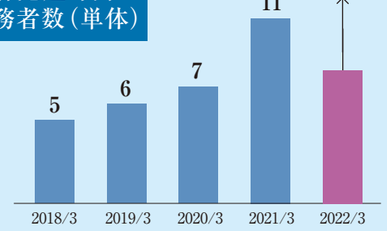


HOWA CSR レポート 2022

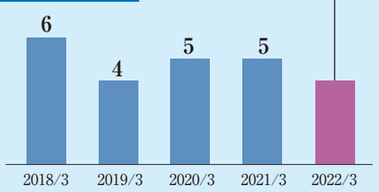
数字で見る HOWA

有給休暇取得日数（単体）
13.0日

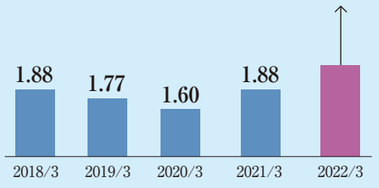
育児短時間勤務者数（単体）
8人



育児休業取得者数（単体）
4人



障がい者雇用率（単体：全社員）
2.41%

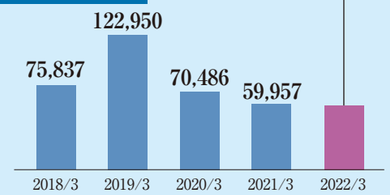


60歳以上従業員比率(単体:全社員)
6.6%

太陽光発電量（単体）
54,010kWh

産業廃棄物排出量（国内グループ全体）
4,740t

水使用量（国内グループ全体）
58,206kl



（単体:全社員）⇒ ㈱HOWAの正社員の他、嘱託社員等を含む

経営理念／CSR方針

経営理念

1. 豊かな人間性と協調の精神によって会社を運営する。
2. あらゆる環境の中でも存続・発展しうる強固な企業基盤を確立する。
3. 常に業界のトップレベルとしての評価と信頼される製品づくりに総力を挙げる。
4. 従業員の福祉の向上と社会の発展に貢献する。

CSR方針

～ 信頼される企業とは ～

当社は経営理念を具現化した5つのCSR方針（企業の社会的責任への取組み方針）を定めています。このCSR方針に基づき企業活動を展開し、社会の持続可能な発展に貢献することは企業の社会的責任であるとともに、当社の発展にも繋がるものと考えています。

1. お客様

安全かつ高い品質の製品を安定して供給することによりお客様の期待に応え、ニーズを先取りした製品を開発することにより業界の発展に貢献します。

2. お取引先

お取引先を尊重し、公正、透明で誠実な取引を維持し、相互信頼に基づく共存共栄の実現に努めます。

3. 従業員

安全かつ健康的な労働環境の提供に努め、人権や多様性を尊重し、従業員個々の能力開発を支援することを通して、従業員と会社がともに成長できるよう努めます。

4. 環境

CO_2排出量の削減や、水資源保全および資源の再利用推進を通して環境負荷低減に努め、持続可能な地球環境の実現に貢献します。

5. 社会

拠点を置く国や地域の文化や慣習を尊重し、社会と調和のとれた発展に努め、法令順守のみならず企業倫理の徹底を図り、社会の信頼に応える経営に努めます。

トップメッセージ

Top Message

トップメッセージ

2021年度は、前年度に続き、新型コロナウイルス感染の影響と半導体などの供給不足による制約を受けた1年となりました。このため、お客様の生産計画が不安定となりサプライヤー各社もその対応に追われるなど、引続き自動車業界にとって厳しい状況が続きました。

その様な環境下ではありましたが、弊社は全社一丸となって収益改善活動や競争力強化など全力で取り組み、新規部位の受注拡大を達成し収益面でも前期比改善しました。

他方では、EV車対応など自動車業界の大変革期を生き残っていくため、新たな技術開発の取組みやカーボンニュートラルという持続可能な社会の実現に向けた取組みも不可欠になる等、自動車業界の中で持続的に成長していく上では、取り組むべきことが益々増加している時代を迎えています。

こうした環境下で持続的に成長していくためには、まず環境変化に迅速に対応できる体制を作り技術革新や商品開発において他社を圧倒する競争力をもつ商品を作り出すこと、すなわち商品力の強化を図ること、同時にSDGsやカーボンニュートラルに資する対応を推し進め、お客様のニーズに対応できる技術開発、商品開発を推進することが重要となります。

こうした取組みによりお客様から選ばれるサプライヤーになることで、厳しい環境下を生き抜き成長していけると考えています。

弊社では、従来より徹底した効率化、スリム化を推進しており、新素材への置換えや既存部材の軽量化などあらゆる面からの改善、改良を日々積み重ね、競争力あるサプライヤーとなれるよう努力を継続しています。

とくに、環境にやさしい素材開発や製造技術の開発には、人と環境にやさしい、環境保全に根差したものであることという創業時からのHOWA製品のアイデンティティがあります。脈々と受け継がれてきた歴史と実績を踏まえつつ、持続可能な地球環境の実現に呼応しかつ快適な自動車内装部材を永続的に追求して参ります。

弊社ではこうした取組みと同時に、法令順守や人権尊重などコンプライアンス意識の啓蒙や、大変革期に対応して臨機応変に変革できHOWAを成長させることができる人材、新しいチャレンジができる人材の育成にも積極的に取り組んでいます。

競争力ある製品づくりを通じた強固な経営基盤の確立と環境など社会的諸課題への積極的な貢献は企業としての存続、発展のために欠くことのできない重要な課題であり、まさに車の両輪です。

どちらにも重点を置き、引き続き取り組んで参ります。

このような弊社の取組みをご紹介し、皆さまにすこしでも弊社の取組みへのご理解を深めていただけますよう、本年も「HOWA CSRレポート」を作成致しました。ぜひご一読いただきますようお願い申しあげます。

代表取締役社長
高田 智行

1 次世代社会の実現に向けた挑戦

自動車業界は100年に一度とも言われる大変革期にあります。その代表格は、CASEやMaaSという新技術によるモビリティサービス改革であり、新たな生活様式や行動の流れを取り込みながら、今後も進歩し、多様化していくことが考えられます。こうした流れの中で当社が生き残っていくための新たな製品開発のコンセプトとして、「5 SENSES TECHNOLOGY」を決定しました。

これは当社の開発の方向性を示すもので、具体的には人間の五感（5SENSES）に訴えかける新たな自動車内装部品を、以下の5つの方向性で開発していくことを指します。

(1) Beauty Space Design（美空間）

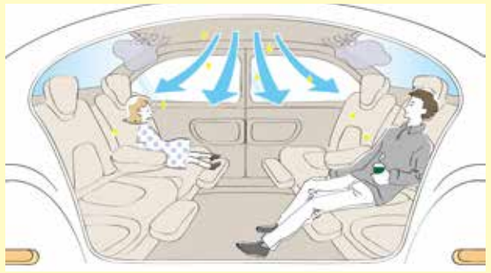
安らげる空間、スペース感や照明効果などを追求します。

(2) Natural Sound Control（自然音空間）

車室内外における静粛性ニーズ変化に対応した最適吸音内装材を追求します。

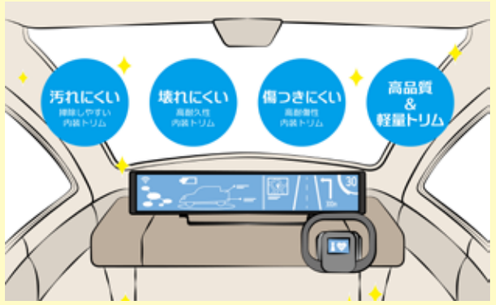
(3) Healthy Air Cabin（健康空気）

機能性香料（目覚まし等）や保湿、消臭効果のある内装トリムを追求します。



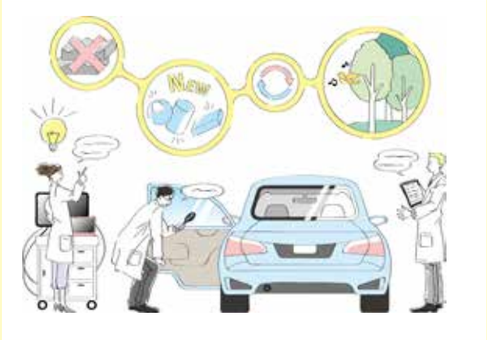
(4) New Function（新機能）

汚れにくく、傷つきにくい高質感、軽量トリムを追求します。



(5) New Material（新素材）

環境負荷の少ない素材を追求します。



2 製品開発

製品開発に際しては、5 SENSES TECHNOLOGYを基本的な方向性としつつ、以下の3点に重点を置いて開発に取り組んでいます。

(1) 先を見据えた次世代製品開発

軽量化、低コスト化、省エネ、性能向上など内装部品に課せられるテーマは幅広く広がっており、常に時代の先端を見据え、研究開発に取り組んでいます。

(2) 防音材開発

防音材は静かで快適な車内空間を創造するためには不可欠な部品であり、防音部品の素材、製品、評価までを一貫してトータルプロデュースすることで、独創的な素材の研究開発から製品づくりを行っています。

(3) 徹底した試験評価

独創的な製品開発力、提案力は研究環境と徹底した試験評価技術に支えられています。試験評価における多くのデータは研究開発スタッフにフィードバックされ、更なる製品開発のチャレンジに繋がっています。

特に、EV化や自動運転化など市場環境の変化が加速する中で、車室内外での静粛性ニーズも変化していることに呼応し、車両音響解析ソフトを開発し音振解析に活用しており、車両の防音性能を低下させない最適な軽量化防音材を完成車メーカーなどに提案しています。

当社の半無響室は国内最大規模で、無音状態をつくり出すことも可能なものです。ここでの徹底した音響評価によって吸音性、遮音性、制振性を測定、分析した豊富なデータの蓄積から、実車評価、材料シミュレーションを行い、快適な車内空間を創出する製品づくりに努めています。

2021年9月には、完成車メーカーより、開発および生産に多大な貢献をしたサプライヤーに贈られる「新基材開発」特別賞を受賞しました。これは、将来の規制対応を見据え、高い吸音性能を有する部材を低コストで短期開発した点を評価していただいたものです。

新素材での快適性、静粛性、デザイン性を兼ね備えた製品開発や抗菌、消臭機能を付した製品開発などによる安心安全な車内空間の提供を目指し、研究開発部門ばかりでなく、設計部門、生産技術部門や品質管理部門が綿密に連携し、完成車メーカーに満足度の高い製品を提供できるよう、日々取り組んでいます。

3 カーボンニュートラルに向けた取組み

「人と環境にやさしい」「環境保全」に根ざしたものという考え方は、創業以来、HOWAの製品づくりのアイデンティティとなっており、古くは繊維端材の活用に始まり、ウレタン廃材やバンパー廃材の活用など、創業以来数々の技術革新を行い、地球資源の有限性を認識し、環境に配慮した資源の有効活用を進めてきました。

この考え方は、現在では「5Rs」の考え方に纏められ、当社のものづくりに根付いています。フロアサイレンサーやダッシュサイレンサー、ドアトリムなどのリサイクル素材を活用した内装部品群は、こうした当社の製品づくりのアイデンティティのもとに具現化してきたものです。

こうした中、日本政府は2050年までのカーボンニュートラル達成を宣言し、これに呼応する形で完成車メーカー各社は、EV車の投入を急速に前倒しする計画を発表しました。また、車を使用（走行）する段階だけでなく、材料や部品・車両の製造段階、電気の発電段階、車両の廃棄までの全ての段階で発生する二酸化炭素を実質ゼロとすることを宣言しています。

5Rsの考え方が根付いている当社は、他のサプライヤー各社と積極的に協力し、また協力会社と連携し、二酸化炭素排出量の削減を推進しています。

カーボンニュートラル社会の実現に向けた当社の取組みは、

（1）製造上発生するCO_2排出量の削減
（2）原材料でのCO_2排出量の削減
（3）廃棄物処理量削減を通じたCO_2排出量の削減
（4）輸送時に発生するCO_2排出量の削減

の観点から推進しており、2030年までに2021年比36%の排出量削減、2040年までに2021年比76%の削減（当社基準）を実現し、2050年までに実質的なカーボンニュートラル実現を目指しています。

具体的には、工場等におけるエネルギー効率の改善に取り組み、耐熱塗装の活用や照明のLED化、フェルト設備のモーター小型化、集約生産による予熱時間削減など、きめ細かい対応策を継続しています。

また、再生可能エネルギーの利用拡大を目指して、本社では既に導入し全量を社内消費している太陽光発電システムを、岡崎工場、HOWA九州工場、HOWA岐阜工場にも設置すべく準備を進めています。本年度中には設置を完了し、再生可能エネルギーの更なる利用拡大を図る予定です。

原材料でのCO_2排出量の削減に向けては、排出量の「見える化」を行い、排出量の少ない素材への置き換えや軽量化による材料使用量の削減に取り組んでいる他、バイオマスや天然素材を原材料とする製品開発にも取り組んでいます。

廃棄物処理量削減に向けては、産業廃棄物として処理していた天井端材を利用した断熱材や遮音ボードの開発を進め、廃棄物処理量の減少によりCO_2排出量の削減に大きく役立っています。

さらに、輸送時に発生するCO_2排出量を削減するために輸送効率の改善にも取り組んでいます。具体的には、社内に物流改善委員会を設置し、トラック積載効率向上、配送ルートの集約や共同輸送、納入回数見直しや納入先近隣地生産による物流距離短縮化などを検討、推進しています。また、梱包や包装資材の削減や環境にやさしい素材への変更なども行っています。

こうした取組みを引き続き積極的に推進し、ものづくりを通じた持続可能な社会の実現に微力ながら貢献していく考えです。

ESGとHOWAの取組み

当社は、生産活動等の製品を生み出す一連の過程の中で、社会に様々な影響を及ぼすことを認識し、また、ステークホルダーの皆様からのニーズに応え、企業の社会的責任を果たすべく取組みを行っています。ESG（環境、社会、ガバナンス）や、SDGs（持続可能な開発目標）等の視点を踏まえた当社のCSR方針のもと、日々の活動において積極的に実践し、社会の持続可能（サステナブル）な発展に貢献していきます。

ESGとHOWAの取り組み

当社が掲げたCSR方針に関連する主な取組み項目を、ESGとSDGs目標の観点で分類することで、社会に貢献する意義の理解を深め、新しい課題の発見に繋げていきます。

CSR方針	HOWA取組み項目		ESG分類	関連するSDGs
お客様 安全かつ高い品質の製品を安定して供給することにより お客様の期待に応え、ニーズを先取りした製品を開発する ことにより業界の発展に貢献します。	●品質方針、品質保証体制 ●製品の開発 ●リスクアセスメント ●火災防止への取組み ●安定供給への取組み（BCP）	●防災訓練の実施 ●緊急事態対応訓練の実施 ●新型コロナウイルス感染者発生時の対応 ●個人情報保護	S G	3 8 9 11 12 13 16
お取引先 お取引先を尊重し、公正、透明で誠実な取引を維持し、 相互信頼に基づく共存共栄の実現に努めます。	●お取引先への取組み ●サプライチェーンに向けた健康サポート		S	1 8 9 10 12 13 16
従業員 安全かつ健康的な労働環境の提供に努め、 人権や多様性を尊重し、従業員個々の能力開発を 支援することを通して、従業員と会社がともに成長 できるよう努めます。	●QCサークル活動 ●脱ハラスメント宣言 ●ハラスメント防止への具体的な取組み ●労使に関わる取組み ●ワークライフバランス社内制度 ●有給休暇の取得促進と残業時間の削減に向けて ●育児休業と介護休業 ●健康経営への取組み ●定期健康診断、歯科検診 ●ストレスチェックの実施 ●健康づくり活動 ●新型コロナウイルスへの感染予防 ●安全衛生	●取締役の安全健康決意表明 ●工場での安全衛生の取組み ●安全道場 ●リスクアセスメント ●火災防止への取組み ●女性の活躍 ●シニア層の活躍 ●障がい者の活躍 ●グローバル人材の活躍 ●人事制度 ●研修について ●防災訓練の実施 ●防災備蓄品の管理	S G	1 3 4 5 8 10 16
環境 CO_2排出量の削減や、水資源保全および資源の 再利用推進を通して環境負荷低減に努め、 持続可能な地球環境の実現に貢献します。	●5Rsの取組み ●工場におけるリサイクル活動 ●リサイクル部品を活用した商品の開発によるCO_2排出量削減 ●工場のCO_2排出量削減 ●物流のCO_2排出量削減 ●社有車に電気自動車を導入 ●照明のLED化 ●再生可能エネルギーの利用	●材料・工程見直しによるCO_2排出量削減 ●最適な再利用・リサイクルを可能とする 循環モデルの構築 ●化学物質の管理 ●水質汚染低減 ●ISO14001の取得 ●環境情報等の積極的な開示	E	3 6 7 8 9 11 12 13 14 15
社会 拠点を置く国や地域の文化や慣習を尊重し、 社会と調和のとれた発展に努め、 法令順守のみならず企業倫理の徹底を図り、 社会の信頼に応える経営に努めます。	●人権の尊重 ●紛争鉱物 ●交通安全活動（立哨活動） ●地域との交流 ●献血 ●寄付	●情報セキュリティ ●コンプライアンス周知に向けた取組み ●コンプライアンス研修 ●汚職・贈収賄防止 ●内部通報制度	S G	1 3 4 5 8 10 11 12 16

E 環境

ENVIRONMENT

カーボンニュートラルへの取組み

5Rs の取組み

「人と環境にやさしい」、「環境保全」に根ざしたものは、創業以来当社の製品づくりのアイデンティティとなっています。環境保全や資源の有効活用をテーマに、創業以来数々の技術革新を行ってきましたが、地球資源の有限性を認識し、環境に配慮した資源の有効活用をテーマに、現在も全社を挙げて「5Rs」に取り組んでいます。

Refine	材料・設計の変更による Reduce、Reuse、Recycle の拡大。
Reduce	廃棄物を発生させない設計・生産技術の展開。
Reuse	廃棄物の同一工程内再使用。
Recycle	別用途での廃棄物有効利用。
Recovery	エネルギー資源としての活用。

当社工場では、ダッシュサイレンサーなどの外周屑リサイクルやエンジンアンダーカバーの端材を粉砕した再利用、ダッシュサイレンサー孔屑、天井端材を産業廃棄物業者でRPF（廃プラスチック固形燃料）化し再利用しています。また、VAや不良低減といったReduceの活動も実施しています。

工場におけるリサイクル活動

磐田工場では、補給品の打ち切りとなったウォーターナイフの受け台の廃棄を産業廃棄物としてではなく、鉄屑として活用いただける企業に届けています。また、資材使用後に発生する紙管（しかん）が大量の産業廃棄物になっていましたが、資材メーカーと交渉し、条件に沿う形で資材メーカーへ返却し、リサイクルを行っています。

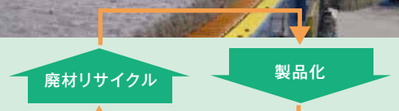
リサイクル部品を活用した商品の開発による CO_2 排出量削減

産業廃棄物としていた天井廃材を利用し断熱材や遮音ボードの開発を進めています。天井廃材を利用した断熱材は従来の断熱材では出せなかった高遮音性能を実現させました。また遮音ボードは、低中周波の遮音性が高くかつ軽量化されました。このようなリサイクル材料を活用した商品化でCO_2排出量削減を図っています。

廃材を再利用した商品開発の推進

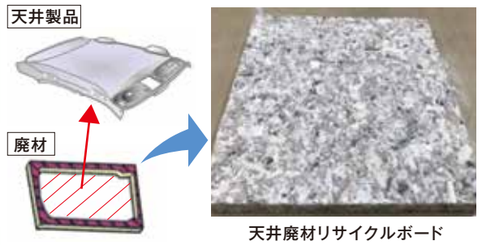
■フェルト

ダッシュサイレンサーなど自動車の吸・防音部品で発生する廃材を吸・遮音材の原料としてほぼ100%再利用しています。



■天井廃材

従来、廃棄されていた天井廃材を再利用し、断熱性や吸遮音性能を合わせ持つリサイクルボードの開発を進めています。



天井廃材リサイクルボード

工場のCO_2排出量削減

当社は生産活動でのCO_2排出量削減に向けさまざまな取組みを行っています。工場の屋根の塗装に耐熱塗装を施したり、フェルト設備のモーターの小型化や、事務所エアコンの省エネタイプへの変更、照明の間引き点灯、外灯の点灯時間調整など細かな取組みを続けています。

また、成形時間短縮、スライス工数改善による時間短縮、集約生産による予熱時間削減、不良率低減、作業工数削減、生産方法変更等による効率化、暖気運転時間短縮、ガラス塗布、発泡工数や生産工程の効率化、予熱時間の管理などをきめ細かく行い、電力の消費低減によるCO_2排出量削減にも取組んでいます。

HOWA九州での取組み

AGV（電気・バッテリー式）による自動運搬と、からくりシューターを用いた空パレットの入替え作業およびウォーキー（バッテリー式リフト）による運搬、荷役作業を行い、ガソリン式対比でCO_2排出量を減らす取組みを実施しています。

AGV（電気・バッテリー式）

ウォーキー（バッテリー式リフト）

物流のCO_2排出量削減

当社は物流活動でのCO_2排出量を削減するために部品などの輸送効率改善に取り組んでいます。

物流改善委員会を中心に、トラック積載効率向上（各路線の統合、共同輸送、収容効率向上など）、物流距離の短縮化（納入先の近隣地生産など）に取り組んでいます。今後もさらなる輸送効率改善を図り、CO_2排出量削減に取り組んでいきます。

社有車に電気自動車を導入

当社は社有車に電気自動車やハイブリッドカー、水素自動車を導入しています。ガソリン使用によって発生するCO_2排出量の削減、排気ガスの抑制に努めています。

照明のLED化

環境負荷低減に向けた取組みの一つとして、照明のLED化によるCO_2排出量削減を進めています。本社では照明全体の70%、岡崎工場では同83%、磐田工場では同71%、グループ会社のHOWA九州では同70%、HOWA岐阜では同90%、HOWA栃木では同50%のLED化を終えており、引き続き100%LED化を進めていきます。

CO_2排出量（Scope1+Scope2）

14,631t

（2021年度・国内グループ全体）

E 環境

ENVIRONMENT

再生可能エネルギーの利用

CO_2排出量削減活動の一環として、本社では社屋の屋上と壁面に太陽光発電システムを導入し、全量を本社で消費しています。

また、2022年度中には以下の通り岡崎工場、HOWA九州、HOWA岐阜に太陽光発電システムを導入し、再生可能エネルギーの更なる利用拡大を図ります。

工場	パネル総枚数	パネル総出力
岡崎工場	778枚	350kW
HOWA九州	1,242枚	559kW
HOWA岐阜	650枚	293kW

環境情報等の積極的な開示

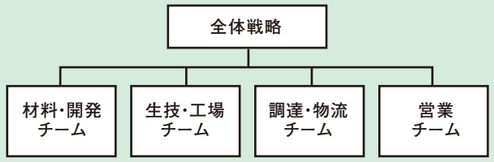
当社は、環境情報の積極的な開示を通して、各ステークホルダーとの環境コミュニケーションを推進しています。CDP気候変動プログラムおよびウォーターセキュリティプログラムには2014年より回答を開示しており、EcoVadis社（本社フランス）のサステナビリティ（持続可能性）調査には2016年より回答を開示しています。その他、各省庁や日本自動車部品工業会等からの調査へも積極的に回答を行っています。

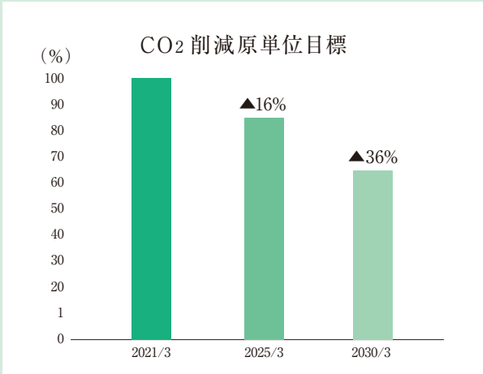
材料・工程見直しによる CO_2排出量削減

製品材料についてCO_2排出量の「見える化」を行っており、製品開発においてCO_2排出量の少ない素材への置き換えに取り組んでいます。具体的には、リサイクル材料、低炭素素材への置き換えや、燃費向上に欠かせない軽量化に向けた取組みです。また、発泡回数や生産工程の効率化で材料から発生するCO_2排出量削減に繋げています。

防音材は、車両の防音性能を落とさない最適防音材提案を行う車両音響解析ソフトウェアの開発で、理想的な軽量防音材の提案やフィルムを使用したユニークな防音材を開発するなど、CO_2排出量削減に取り組んでいます。

〈カーボンニュートラル推進体制〉



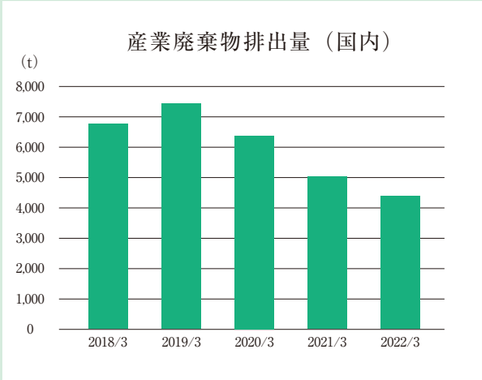


環境負荷低減に向けた取組み

最適な再利用・リサイクルを可能とする循環モデルの構築

金属、作動油、紙類をリサイクルし、廃棄物の低減に努め、最適な再利用・リサイクルを可能とする循環モデルを構築し、廃棄物を減らすとともに廃棄時の影響低減に取り組んでいます。

年1回の産業廃棄物処理現場の確認を通じて、廃棄物が適正に処理できているかの確認も実施し、産業廃棄物排出量（国内）は2019年3月期の7,441トンをピークに減少傾向にあり、2022年3月期は4,740トンとなりました。



化学物質の管理

当社はお客様のニーズに適した安全かつ高い品質の製品を安定して供給するため、関連法規情報を収集し、製品の企画段階から原材料に含まれる環境負荷物質を把握する管理活動に取り組んでいます。また、お取引先の環境負荷物質管理体制に関する点検を通じて、お取引先の管理体制向上支援や理解普及活動も行っています。

水質汚染低減

当社工場では油水分離槽を通してサイト外へ排水するとともに、工場排水の水質測定を定期実施しています。

ISO14001環境マネジメントシステムに基づいた設備の日常チェック、定期的な事故を想定した訓練により水質汚染の防止に努めています。

油水分離層

ISO14001の取得

当社は工場単位で環境方針を定め、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を認証取得しています。

2020年2月HOWA栃木が新たに認証取得し、HOWAグループの認証取得工場は合計5工場になりました。

ISO14001 認証取得状況

対象拠点	認証取得
磐田工場	2000年11月15日
岡崎工場	2001年11月18日（登録移転2018年8月）
HOWA九州	2003年12月19日
HOWA岐阜	2005年10月 7日
HOWA栃木	2020年 2月28日

S 社会

製品の安全・品質

品質方針

全社一丸となって品質改善に努め、
世界トップレベルの顧客満足度(CS)を実現する

一人ひとりが当事者意識を持ち、品質改善に取り組み
『オールHOWAでOnly One品質』を実現する

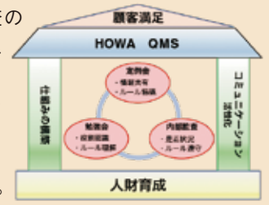
―重点方針―

行動のスピードを上げ、一人ひとりが能動的に動く人づくり・職場づくり

(1)全プロセスを満足した**品質マネジメントシステムを確立**し、法規、顧客要求事項の拡大に対応する
(2)部門間が結束、**高品質HOWAブランドを提供**し顧客の信頼を勝ち取る
(3)品質の原点に立ち返り、現場管理における**[品質の急所]の強化**を図る
(4)再発防止と横展開により**未然防止の強化**を図り、仕事の質向上から収益力の一躍を担う

品質保証体制

当社は、顧客満足達成のために継続的改善を続ける品質マネジメントシステム(QMS)を構築してます。
定例会・勉強会・内部監査の実践活動からPDCAを回し、基礎となる「人財」を「育成」し、HOWA QMSを支える「仕組みの構築」「コミュニケーション活性化」の2本柱を軸に体制強化を図ってます。



QCサークル活動

当社はQC活動を積極的に推進しています。この活動は、業務改善を全員参加で考え、推進するための効果的な活動と位置づけています。継続的な活動とすることで、企業体質の改善・強化、スタッフの能力向上を図ることを目的としています。部署別にチームを作って活動し、発表会では、優秀チームに社長表彰を行っています。この活動は達成感を持つことによる意識改革や明るく働きがいのある職場づくりにも繋がっています。

製品の開発

当社は、電動化や法規制強化(騒音、CO_2)、自動運転/コネクテッド等の変化に加え、カーボンニュートラルが加速する中において、「5 SENSES TECHNOLOGY」として5つの技術ベクトルで「快適な車室内空間」を提供していくことを目指しています。

1.Beauty Space Design(美空間)
①安らげる空間研究⇒スペース感、質感、照明効果など研究
②自動運転化の安楽姿勢対応として天井に表示系追加
③照明機能をモジュール化　④間接照明(深絞り技術活用)

2.Natural Sound Control(自然音空間)
①車室内外トータルでの最適特性提案
②音声認識率向上音響特性インテリア
③EV車向け吸音材　④タイヤと吸音材同期開発
⑤吸音タイプ不織布内装トリム
⑥低コスト吸音材、成形可能な吸音材
⑦吸音タイプのフロアかさ上げ材
⑧吸音エンジンヘッドカバー

3.Healthy Air Cabin(健康空気)
①消臭天井　②保湿効果ある天井
③機能性香料(目覚まし、活性化)
④断熱天井、内装トリム

4.New Function(新機能)
①汚れにくい、掃除しやすい内装トリム
②壊れにくい高耐久性内装トリム
③傷つきにくい高耐傷性内装トリム
④高質感&軽量トリム(成形不織布)

5.New Material(新素材)
①環境負荷の少ない素材へ変更
②リサイクル性のよい素材
③天然素材活用

特に、車室内外においての静粛性ニーズも変化していることに呼応し、当社が得意とする車両音響解析ソフトウェアの開発により音振解析を活用し、車両の防音性能を落とさない最適防音材を提案しています。2021年9月には、お客様より開発および生産に多大に貢献したサプライヤ―へ贈られる「車外騒音規制対応アンダーカバー新基材開発」特別賞をいただきました。将来の車外騒音規制対応を見据え、高い吸音性能を有するアンダーカバーを低コストで短期開発した点に評価をいただいています。また、「新加飾」、「新表皮」、「新天井基材」といった、快適性・静粛性・デザイン性を兼ね備えた製品や、世界初の『抗ウイルス・抗菌・消臭』機能を付与した表皮の開発を通して快適・安全・安心な車内空間をお客様に提案し商品化し、自動車産業発展に貢献しています。

SOCIETY

サプライチェーン

お取引先への取組み

当社は、下請代金支払遅延等防止法(下請法)などの法令を遵守し、お取引先を尊重し、公正、透明で誠実な取引を遂行し、共存共栄に努めています。
さらに、環境・社会面、健康や労働安全衛生等にも配慮しお取引先と協力しながらサプライチェーン全体で持続可能な社会の実現に貢献していきます。

紛争鉱物

鉱物資源の違法採掘や密輸は武装勢力の資金源になっていると言われており、そうした可能性がある鉱物(紛争鉱物)に由来する金属の使用有無については調査報告義務が米国で法制化されています。当社は、お客様の調達方針を共有し、お客様が安心して製品をお使いいただけるよう、紛争鉱物の調査を実施しています。
お取引先の協力を得ながら、サプライチェーンをさかのぼり、紛争鉱物の使用状況を確認しています。採掘場での児童労働などの社会問題もひきおこす懸念のある原材料の使用を回避すべく、お客様やお取引先と連携して取り組んでいます。

人権の尊重

当社は、さまざまなステークホルダーの人権について、従業員一人ひとりが意識を高く持ち、他者への尊厳を保ちながら企業活動を行っています。特に、強制労働・児童労働については、サプライチェーンとして取組みを行っており、法律で定められた就業最低年齢を下回る年齢の児童を労働させたり、児童の健康・安全・道徳を損なうおそれのある労働に従事させることは、当社のみならず、グループ各社やお取引先とも共同して防止を図るよう努めています。
児童労働は児童の権利や心身の発育等の観点から不適切であり、国内外の当社拠点における製品の製造過程において、児童労働がなされることのないように周知しています。

脱ハラスメント宣言

当社はいかなるハラスメント行為も許さず、全ての従業員がお互いに尊重し合える職場づくりに取り組んでいます。社長からの強いメッセージを社内に展開し、研修でも徹底を図っています。

いかなるハラスメントも許しません!!

ハラスメント行為は人権に関わる問題であり、従業員の尊厳を傷つけ職場環境の悪化を招く、ゆゆしき問題です。
当社は、いかなるハラスメント行為も断じて許さず全ての従業員が互いに尊重し合える、安全で快適な職場環境づくりに改めて取り組んでいきます。

社長から全従業員あてに発せられたメッセージ

ハラスメント防止への具体的な取組み

従業員等の労働環境をよりよくし、各自の有する能力を最大限に発揮できるように、各種ハラスメントの予防に積極的に取り組んでいます。取組みの一つとして、全役職員を対象として毎年定期的に開催しているコンプライアンス研修においては、毎年必ずハラスメントに関する項目を取り上げて意識啓蒙を図っているほか、2021年度においてはパワーハラスメント予防に特化した研修も管理者向けに実施しました。また、ハラスメントに関して内部通報窓口に寄せられた相談に対しては、事実を確認し、問題解決に取り組んでいます。

労使に関わる取組み

当社は労働組合と、会社の発展と組合員の労働条件の維持改善、健全な労使関係を築くことを目的として、労働協約を締結しています。また、労使間の話し合いの場を設定し、さまざまなテーマについて定期的に協議および意見交換を行っています。

働き方

ワークライフバランス社内制度

「企業は人なり」の精神に立って会社を発展させ、社員と家族の幸福を実現することを経営基本方針に掲げ、その実現に向けた取組みを展開しています。
具体的には、フレックスタイム制度や、法律で定める基準を上回る年次有給休暇制度や育児関連諸制度、有給の介護休暇など介護関連諸制度を取り入れています。今後も多様なライフスタイルを尊重し、全社員が職場とプライベート両面で充実感を得られるような環境整備を推進していきます。

有給休暇の取得促進と残業時間の削減に向けて

年次有給休暇の取得促進に向けて、毎月取得状況をチェックし部門長にレポートしているほか、定期的に全社の取得状況を社内に公表しています。労使を交えた取得促進についての話合いの場も設定しています。
また、従業員が健康でいきいきと働ける職場を目指して、長時間労働の防止にも取組んでいます。
月間の残業時間をレポートするとともに、労使を交えた残業時間削減についての話合いの場も設定しています。

育児休業と介護休業

育児休業制度および介護休業制度を導入しています。育児休業は1歳6カ月に満たない子と同居し、養育する人が取得できる制度で、男性も取得可能です。また、小学校を卒業するまでの子を養育する従業員が当該子を養育するために申出した場合に育児短時間勤務も可能です。介護休業は要介護状態にある家族を介護する従業員が介護を目的に取得できる制度です。また、介護短時間勤務も可能となっています。

S 社会

従業員の健康

健康経営への取組み

当社は、社員の健康を経営課題と捉え、健康維持・増進に取り組むことが社員の活力向上や生産性向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や組織としての価値向上へ繋がるという考えのもと、「健康経営」を推進しています。2021年7月に「健康宣言」を公表し、健康経営推進体制を整えました。各自が自身の健康に配慮することはもとより、全社を挙げて社員の健康維持・増進に取り組み、意識を高めていくことで、今後の継続的で安定した事業の発展を図ります。

■健康宣言

当社は車室内の快適空間を創造するとともに車外騒音規制に対応した製品を追求し明るく活気のある職場づくりに努めます。元気な職場づくりには社員一人一人の心と体の健康が最も重要と考えます。仕事のやりがい、人生の生きがいは会社がもたらすところが大きいと感じます。社員がモチベーションを維持してチャレンジする事が会社の成長にもつながります。「社員の健康に満ちた笑顔と、活気ある元気な職場」の実現に向けて取組みを続けていきます。

〈推進体制〉

また、経営的な視点から取り組む健康維持・増進施策の推進が評価され、2022年3月に、経済産業省と日本健康会議より、「2022年度健康経営優良法人（大規模法人部門）」に認定されました。健康経営推進における経営層の率先した関与と情報共有、喫煙率低減への取組み、健康診断・ストレスチェックの検診率向上、労働時間の適正化、従業員の教育ニーズ吸上げと人材育成教育の実施等が評価されました。引き続き従業員の健康増進に向けて活動し、優良法人認定維持を目指します。

定期健康診断

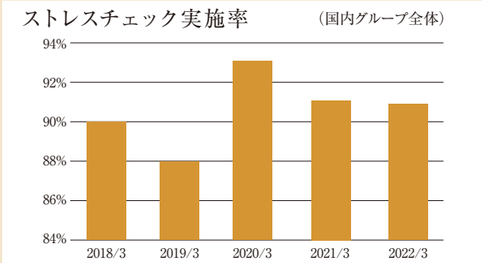
人生100年時代、長く働き続けるためにも健康の維持はとても重要です。当社ではグループ企業も含め全従業員が年1回健康診断を受診して自らの健康を管理できるよう助力しています。また、特定の年齢層を対象にがん検診をオプションで付加し、人間ドック受診希望者で特定の年齢層にあたる人には費用補助を行っています。

歯科検診

定期的に歯科健診を受けることは歯と口の健康のみならず全身の健康を維持・増進させることにもつながっていきます。2020年から定期健康診断と同様に歯科健診を毎年実施しています。

ストレスチェックの実施

セルフケアのさらなる充実および働きやすい職場環境の形成を目的に、労働安全衛生法に基づき、ストレスチェックを毎年1回行っています。Webによる受検後、ストレス状況が表示され、各人別のアドバイスなどがWebサイトで確認できます。



健康づくり活動

健康保険組合が毎年9月から11月の3ヶ月間に開催するキャンペーンに参加し、従業員に運動・食事・歯のケアについて目標を立ててもらい、健康づくり活動を行っています。また、同期間、禁煙希望者へ禁煙補助薬を支給し、禁煙チャレンジを行っています。産業医による健康相談、自由に使える血圧計の設置、バランスの取れた食事の摂取に向けた社員食堂メニューや社内自販機へのカロリー表示など、自分の健康に気を配ることができる環境づくりを進めています。

上記の健康づくりキャンペーンの活動参加により、当社が所属するトヨタ関連部品健康保険組合から、2021年度「ヘルスマチャレンジ　健康づくり取組み優良賞」を受賞しました。

サプライチェーンに向けた健康サポート

サプライチェーン全体での健康維持・増進のために、仕入先へコロナウイルスの感染予防対策の周知依頼や、感染対策の状況調査及び健康サポートを実施しています。

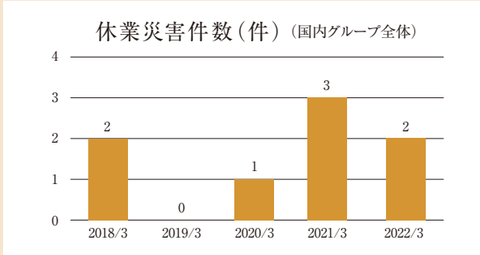
新型コロナウイルスへの感染予防

当社は、新型コロナウイルスの感染拡大が伝えられた当初より部門横断の対策本部を立ち上げ、以来月次で、感染予防に向けた注意喚起と感染拡大状況に応じた対策を社内に展開しています。3密（密閉、密集、密接）の回避、マスク着用、うがい、手洗い、消毒という原則を徹底し、勤務についてはテレワーク環境を整え、可能な範囲で在宅勤務を指示できるようにし、フレックス勤務や時差出勤の活用と合わせ、柔軟な働き方が可能な体制を採っています。消毒液や非接触式の体温検知器の設置など基本的な感染予防策も徹底し、感染予防に万全を期しています。
また、海外勤務者の帰任時や海外出張からの帰国入国時などの対応は対策本部が管理し、当局の水際対策に沿った対応ができるよう、個別に管理しています。

労働安全衛生

安全衛生

当社は労働安全衛生法に基づき各事業所に安全衛生委員会を設置しています。安全パトロールや事故を未然に防止するための啓蒙活動、健康維持増進のための活動に日々取り組んでいます。

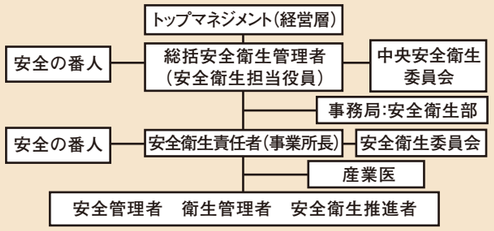


■安全衛生委員会設置拠点

事業所名	
本社	HOWA岐阜
磐田工場	HOWA栃木
岡崎工場	HOWA岩手
HOWA九州	東京支社（衛生委員会）

※営業所などその他拠点は在籍従業員が50名未満のため安全衛生委員会を設置しておりません。

■安全衛生推進体制



取締役の安全健康決意表明

毎年4月、安全衛生の基本理念と安全衛生方針である「安全と健康はみんなの責任である」「明るく楽しく、健康で災害の無い職場をつくり上げる」を実現するために全取締役の思いを表明しています。髙田社長の「毎日安全、心身とも健康」を筆頭に各取締役の安全に対する強い思いが表れています。

SOCIETY

工場での安全衛生の取組み

安全衛生管理年間計画の作成、進捗確認、マネージメントレビューにより、PDCAを実行しています。目標が達成できなかった内容は次年度に挽回する目標を立てることとしています。安全最優先の風土づくりとして、生産課で月1回安全専念時間を設定する他、小集団活動として、残留リスクやハザードの定期確認、KYシート、入社2ヶ月後の安全意識テストなどを実施しています。

安全道場

部署毎に安全教育計画を立案し、ルール再確認や過去災害の振り返り、新入社員の導入教育を実施しています。挟まれ、巻き込まれの怖さを知ってもらうために、治具装置を用いて疑似の手指を実際に挟ませ、どうなるかを体験してもらうなど安全への意識を高めるための教育を実施しています。

リスクアセスメント

当社は労働安全衛生法に基づき3種類のリスクアセスメントを実施しています。

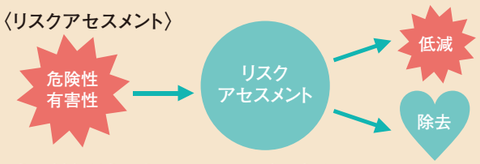
①作業リスクアセスメント（定常作業/非定常作業）
作業手順に沿った内容でリスク評価を行っています。

②設備リスクアセスメント
新規設備導入時や設備改造、移設時にリスク評価を行っています。

③化学物質リスクアセスメント
化学物質の新規採用時にリスク評価を行っています。

要領書と手順書を整備し、グループ共通の活動として実施しています。年間の実施計画を安全衛生管理計画書に取り入れ、実績を毎月の安全衛生委員会にて報告、共有しています。また、2022年より更なる労働災害の未然防止として、過去に発生した災害についてリスクアセスメントを行い、労働災害ゼロを目指した活動を実施しています。

〈リスクアセスメント〉



火災防止への取組み

事業所ごとに防火管理要領を定め、火災から従業員の命と会社の資産を守り、地域やお客様に影響が及ばないように努めています。防火管理者、火元責任者、自衛消防隊の役割を明確にし、消火設備の点検や従業員の遵守事項を定めるとともに、本要領に即った防災訓練を実施し、防火体制の強化を図っています。

S 社会

ダイバーシティ

女性の活躍

全従業員の1割を超える（HOWA単体、期間工・パート等を除く）女性の活躍は当社にとって重要な課題です。生産部門、技術部門、開発部門や管理部門などさまざまな分野に多くの女性が従事していますが、性別によらず活躍できる環境づくりの推進に取り組んでいます。

シニア層の活躍

定年退職者が在職中に身につけたスキルやノウハウは貴重な財産であり、次世代にきちんと伝承していく必要があります。こうした観点から当社は定年再雇用制度を導入しています。退職前に、上長との面談で再雇用後の働き方について本人の希望を聞き、再雇用後にスムーズに業務に取り掛かることができる様にしています。毎年、働き方や業務内容を見直し、臨機応変に契約内容を見直すこともでき、業務での活躍ばかりでなく、後進育成の一翼を担ってもらっています。

60歳以上在籍者数

2021年4月 20名 ▶ 2022年4月 29名

障がい者の活躍

当社は、CSR方針に人権や多様性の尊重を掲げており、さまざまな障がいをもった方々が働きやすい職場環境づくり、生き生きと自立して働ける職場づくりに積極的に取り組んでいます。また、この一環として、障がい者職業生活相談員も2名配置しています。一方で、採用活動も、地元ハローワークのご協力を頂きながら、積極的に行っています。こうした活動の結果、2022年3月末には法定雇用率2.3%を達成することができました。さらに、地元の高等特別支援学校と協議を重ね、2022年6月には同校から初めて実習希望者を受け入れることができました。今後とも、障がい者の方々の社会進出の一助となれるよう、働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、法定雇用率の安定的な達成に向け、採用活動にも注力していきます。

障がい者雇用人数（重度障がい考慮後）

2021年4月 14名 ▶ 2022年4月 17名

グローバル人材の活躍

当社は新卒、中途に関係なく、外国籍社員を積極的に採用しており、アジアをはじめ多くの外国籍社員が在籍し、各部門で活躍しています。また、HOWAグループは海外に23の拠点を有しており、多くの現地社員が活躍しています。グローバルで事業を継続していくためには、多様な人材の起用は重要だと考えており、グローバル人材の育成に努めています。一方、日本から海外現地法人に出向する社員に対しては、語学研修のほか、様々な赴任前教育を実施しています。通常の赴任期間は3～5年ですが、本人の希望により赴任期間を延長するケースもあり、異国の文化や習慣の中で、大きなやりがいをもって成長する社員も多くいます。

人材育成

人事制度

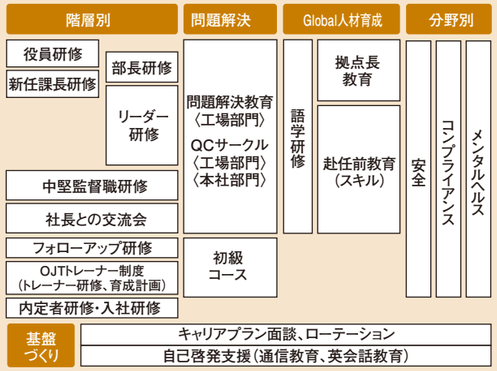
自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えていますが、当社がこの大変革期の中で持続的に成長するためには人材育成が不可欠と考えています。当社の人事制度は、「育成」、「評価」、「処遇」の3つの制度で構成されており、これらが有機的に連携して良いサイクルを生み出すことによって、効果的な人材育成に繋げています。中でも育成制度は、階層別や分野別の教育・研修会、問題解決やグローバル人材育成などの目的別教育を導入しており、人材育成には計画的にきめ細かく対応しています。

〈人事制度体系〉

研修について

当社は階層別研修として、新入社員研修、中堅監督職研修やリーダー研修、新任課長、部長、役員に向けたマネジメント研修などを実施しています。新入社員研修では、社会人としての基本姿勢を養うビジネスマナーから、新入社員が早期に職場に馴染み、活躍するための業務説明や工場実習を行っています。中堅監督職（係長、工長）研修は、期待される役割の認識、役割遂行に必要な知識・考え方の習得を目的として実施しています。リーダー（次長、課長）研修やマネジメント研修は、次世代のリーダーを育成すべく、意識改革とマネジメント力向上を目的に行っています。上司、部下、関係部署からの多面評価を取り入れていますが、多面評価は「気づき」も多く有意義であり、他の階層の研修でも実施すべく検討を行っています。また、2021年度から若手社員が経営者の考えを直接聞き、会社のビジョン、あるべき姿を捉えながら会社への興味関心を高め、チャレンジ意識を育むことを目的とした「社長との交流会」がスタートしています。その他、工場のリーダー育成を目的とする問題解決教育や、グローバルで活躍できる人材の育成、安全、コンプライアンス、メンタルヘルスなどの分野別の研修を定期的に行い、“人財”の強化を図っています。

〈教育研修の体系〉



地域社会への貢献

交通安全活動（立哨活動）

毎月1回交通事故ゼロの日に合わせ、本社周辺の交通量の多い交差点で、シートベルト装着やスマホながら運転防止の呼びかけ、歩行者への挨拶運動を行っています。ドライバーの方々や歩行者の方々の安全意識向上とともに、参加者自身の意識向上に寄与するものとして取り組んでいます。自動車業界に属する企業として、従業員自身はもちろん家族、仲間から一人の加害者も被害者も出さないという思いを込めて取り組んでいます。

地域との交流

当社工場では、地域との交流活動の一環として、地域の方々をお招きする工場見学会などを開催しています。2020～2021年度はコロナ禍により、小学校での出張授業や質問に答える様子を動画にして授業に使うなど形を変えて継続しました。また、工業団地内の清掃活動、交通安全市民運動などの地域行事への参加や接面道路の定期パトロールと除草、樹木伐採などは引き続き行っています。

SOCIETY

献血

当社は、毎年定期的に日本赤十字社の献血車に来社頂き、社員に呼びかけ、献血を行っています。2020～21年度は、コロナ禍で献血活動に協力できませんでしたが、厚生労働省や日本赤十字社の新型コロナウイルス感染症に関する献血受入れ条件を踏まえたうえで、献血活動の再開を検討しています。

寄付

当社はCSR方針で、社会の信頼に応える経営に努めることを掲げており、地域振興などのさまざまな分野で寄付活動を行っています。一例として、2020年度は、名古屋銀行を通じて寄贈型私募債を発行し、岡崎工場近隣の小学校に40万円相当を寄付しました。2021年度は、寄贈型私募債発行により、春日井市民病院に30万円相当を寄付しました。

春日井市民病院への寄贈記念品

また、コロナ禍で増加した生活困窮者を支援するため、防災備蓄品の一部をNPO法人などの団体へ寄贈しました。これらの品々は、新型コロナウイルスの影響で職を失い母国にも帰れない外国人の方々や、愛知県に住む生活困窮者の方々の手に渡りました。

G ガバナンス

リスクマネジメント

安定供給への取組み（BCP）

BCPとは、地震や火災など不測の事態が発生した際に、社員の安全確保とともに、製品供給を維持し、事業を継続することを通して企業の社会的責任を果たしていくための計画を指します。

当社では、緊急事態認定基準に抵触する事象が発生もしくは発生する恐れが高くなった場合、その事象の規模と影響範囲の大きさから危険度区分を判定し、危険度のレベルに応じた対策本部を設置する方式を導入しています。対策本部を構成する部署も予め定め、緊急連絡網も整備しています。

なお、火災発生時には、初動対応を迅速に行えるよう、各拠点で自衛消防隊を組織し、連絡班、初期消火班や避難誘導班、応急救護班など役割分担を予め定め、有事の際の体制を整えています。

また、社員の安全確認という点からは、災害発生時に社員とその家族の安否を確認し、被害の状況を確認する安否確認システムを導入しています。このシステムは、安全確認とともに事業を維持する陣容を確保するためにも重要なものとなっています。

防災訓練の実施

当社は、今後発生が懸念されている南海トラフ大地震などの災害に備えて防災訓練を毎年実施しています。スムーズな屋外避難や従業員の安否確認のほか、消火器を使用した消火訓練、消火栓やAEDの使用訓練、煙道や地震の模擬体験を社員が実際に経験し、また、負傷者搬送用担架の使用方法を学ぶなどの訓練を実施しています。

緊急事態対応訓練の実施

IATFの求める緊急事態対応訓練を定期的に行っています。訓練内容は、社内規定に基づき主要設備の故障を想定した訓練で、2021年度は岡崎工場で実施しました。岡崎工場内で出火し、復旧の目途が立たないという想定で、他生産ラインへの移管や他工場への生産移管などの稼動代替案を検討し、設備仕様、負荷検証の結果をもとに対策を定め、顧客へ報告するまでの訓練を行いました。

防災備蓄品の管理

災害時などでダメージを受けた設備の復旧要員や帰宅困難者のために社内に長期保存用の非常用食料、飲料水や毛布、災害救助用工具などを備えています。有事の際、被害を最小限に抑え事業活動を継続するため日頃から整備に努めています。

また、屋外に防災品の保管庫を設け、毛布等の必要物資を保管し、災害に備えています。

新型コロナウイルス感染者発生時の対応

社内でコロナウイルス感染者が発生した場合の対策として、対策本部あて連絡や、所属ラインの隔離、公共交通機関での出勤禁止や社内動線の分離、消毒作業の実施などの手順を予め設定しており、発生の都度、このルールに従って対応してきました。

当局の方針が変更された場合は対応策を見直し、関係者に適切な対応を促すとともに、個別フォローを実施しています。

情報セキュリティ

当社は「機密管理規程」「機密保持テキスト」などを整備し、情報セキュリティ、機密保持について機密保持委員会を中心とした管理体制を敷いています。ファイアウォール、アンチウイルスソフト等のITセキュリティ対策、ICカードによる機密エリアへの入退場管理、機密情報の管理手法、取引先との機密保持契約締結など様々な項目についてルールを定め、的確な運用に努めています。また、標的型攻撃メールを模したメール訓練を定期的に実施し、セキュリティリスクの低減を図っています。

GOVERNANCE

コンプライアンス

コンプライアンス周知に向けた取組み

当社は倫理規程を制定し、当社役職員が遵守に努めなければならない内容を定め、啓蒙活動を継続しています。各部門長を倫理、法令等遵守の責任者とし、所属員へのコンプライアンスに関する指導を行う体制をとっています。

加えて、コンプライアンス研修を毎年継続し、役職員へのコンプライアンス意識の浸透・定着に努めています。

役職員に配布するコンプライアンスマニュアルには疑問点がある場合の対応策や相談先を記載しています。このマニュアルは毎年内容を見直し、法令や社会情勢に沿った最新の内容を社内で共有しています。

また、コンプライアンスについて考える機会を設けるため、社員に対して法令改正情報や事例などをまとめた文書を定期的に配布しています。社内報では、社内規程の改定や社会情勢についてのタイムリーな記事を掲載し、これらを通じてコンプライアンスについて学び、考えることができる体制を整えています。

なお、当社は反社会的勢力との関係断絶のため、法令および行政機関等の指導に従い、反社会的勢力の排除に関する覚書を取引先と取り交わしています。

コンプライアンス研修

コンプライアンス研修は、HOWAグループに所属する全役職員を対象とし、コンプライアンスの重要性、遵守すべき法令等の説明を毎年実施しています。

コンプライアンス研修受講者数 **884名**
（2021年度・国内グループ全体）

汚職・贈収賄防止

当社は倫理規程において、取引業者との公正取引を定め、癒着の禁止、業務上の利害関係者への経済的利益および便宜等の供与や収受の禁止を定め、汚職や贈収賄の禁止を徹底しています。

個人情報保護

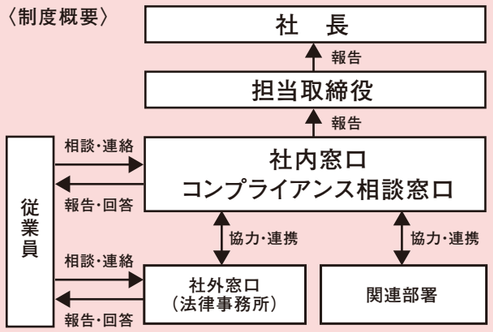
個人情報の適切な取扱いを図り、個人の利益を保護するために「個人情報取扱規程」を定めています。お客様やお取引先の方々などの個人情報を厳正に取り扱うためにプライバシーポリシー（個人情報保護方針）をホームページで公開し、役職員一同がこれを遵守し、お客様からお預かりする個人情報の保護に万全を尽くしています。

内部通報制度

法令違反や社内不正、社内規程に違反する行為やこれらが疑われる行為に関する相談、通報窓口として、コンプライアンス相談窓口を設けています。社内と社外に窓口をそれぞれ設置し、通報専用のメールアドレスや郵送先を設定、社外窓口は弁護士としており、通報者や相談者のプライバシーが保護され、相談しやすい環境を整えています。

内部通報件数 **13件**
（2021年度・国内グループ全体）

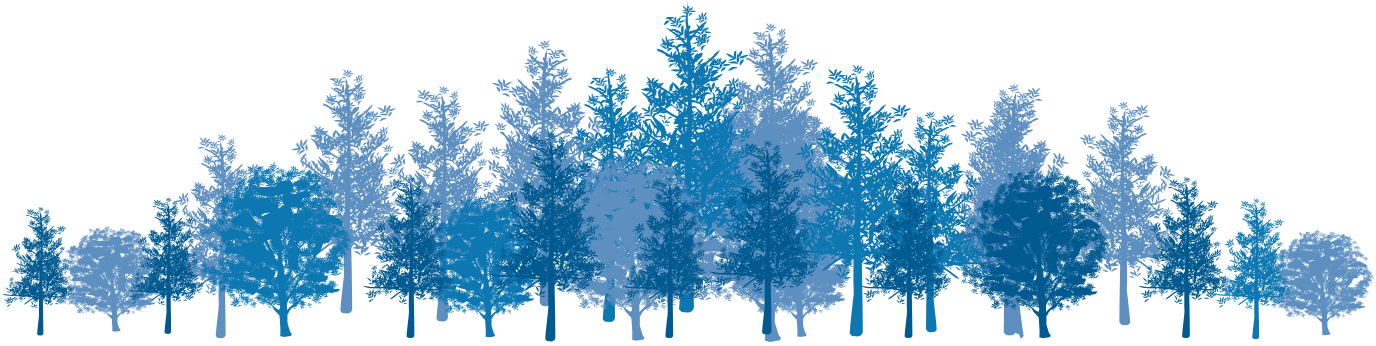
〈制度概要〉



あとがき

「CSRレポート2022」をお読みいただき、ありがとうございました。このレポートは、HOWAグループのCSR活動をご紹介するレポートとして編集しています。日本と世界各地のHOWAグループ各社を報告対象としていますが、個々の報告項目によりその範囲は異なります。

なお、このレポートには当社の将来に向けての方針や考え方も含まれますが、これらは当社が現時点で収集可能な情報から判断した事項です。実績は異なる可能性があります。

【発　　行】2022年8月
【対 象 期 間】2021年4月1日から2022年3月31日まで。ただし、一部の記載は当該期間前後の活動内容を含みます。
【問い合わせ先】総務部CSR推進課

株式会社HOWA
〒486-0969 愛知県春日井市味美白山町2丁目10番地の4
TEL 0568-34-8180（代表）
http://howagrp.com